

幻を見る共同体として

大学教育学科 清水 禎文

¹⁷『神は言われる。
終わりの時に、
わたしの霊をすべての人に注ぐ。
すると、あなたたちの息子と娘は預言し、
若者は幻を見、老人は夢を見る。
¹⁸わたしの僕やはしたためにも、
そのときには、わたしの霊を注ぐ。
¹⁹上では、天に不思議な業を、
下では、地に徴を示そう。
血と火と立ちこめる煙が、それだ。
²⁰主の偉大な輝かしい日が来る前に、
太陽は暗くなり、
月は血のように赤くなる。
²¹主の名を呼び求める者は皆、救われる。』

使徒言行録 2章 17節-21節

2023年9月30日、宮城学院同窓会130周年記念礼拝が執り行われました。礼拝説教は、長い間、おそらく30年以上にわたり同窓会の聖書研究会を指導なされてきた深田寛牧師でした。厳粛な説教の後、音楽科の学生による演奏が行われました。明るい音色が、この礼拝堂に響き渡りました。

私にとって印象的だったのは、喜寿を迎えられた卒業生のお祝いでした。たくさん
の卒業生が、誇らしげに祝福を受けておられました。本学での学びを終えて、優に50
年を越える歳月を過ごされてきた方々の姿を拝見しながら、本学において蒔かれた
小さな種がしっかりと成長し、豊かな実を結んでいること、そして今ここに神の国がある
ことを確信することができました。

学校を担っているのは、今現在、この学校に集う者、子ども、生徒、学生、教職
員ばかりではありません。今、この学校に集う私たちは、学校の長い歴史の中の一コ
マにすぎません。学校の歴史は、歴史を通して学校に連なる人々によって担われて
います。プールボー宣教師を初めとして、今は天に召された方々も含め、実に多くの
先達に支えられているのです。また、まだこの世に生まれて来ていない方々も含めて、

歴史は受け継がれていきます。私たちの宮城学院という共同体は、時間を越えて拮がっているのです。同窓会の記念礼拝では、そのような思いをし、心を新たにした次第です。

さて、本日のテキストは使徒言行録第2章です。新共同訳聖書には、「聖霊が降る」との小見出しがつけられています。信仰の共同体としての教会の成り立ちの経緯、教会が聖霊によって成り立った経緯が描かれています。

過越しの祭りを締めくくる五旬祭のことでした(1節)。弟子たちは一つになって集っていました。そこに突然激しい風が吹いてくるような音が聞こえてきました。すると不思議なことに、そこに集ったガリラヤ出身の弟子たちたちが、いろいろな国々の言葉で話したのです。物音を聞いて集って来た人々は、自分の母国語で福音が語られている様子に驚き、賛美する者、出来事を受け止めかねて戸惑う者、そして「あの人たちは、新しいぶどう酒によっているのだ」と言って、あざける者もいました。人々の反応はさまざまでした。

その時、使徒ペトロが他の使徒と共に立ち上がり、説教を始めました(14節)。ペトロの最初の説教です。そして、イエス亡き後のキリスト教会の歴史において、最初の説教と言って良いでしょう。

説教の冒頭には、旧約聖書のヨエル書からの引用が記されています。ヨエル書は旧約聖書の中の小さな預言書です。全体で4章しかありません。蝗(いなご)による被害、旱魃という災害が続く中で、主の日が近づいていること、そして古い時代が終わり新しい時代が始まるのだという黙示思想が述べられています。その下りで記されているのが、すべての人に霊が注がれること、「若者は幻を見、老人は夢を見る」との言葉です。

夢、幻という言葉は、何かつかみどころのない、実現不可能な事柄のように思われるかも知れません。例えば広辞苑では、幻を次のように説明しています。「実在しないのに、その姿が実在するように見えるもの」と。しかし、聖書の中で使われる夢、幻は、やや趣を異にします。もちろんいろいろな解釈があるようですが、困難な状況の中で、神の声を聞き、それを視覚的に表現したもの、それが幻であり、夢なのです。

今は厳しく困難な状況にある、しかしこの状況は主なる神の不思議な力の働きかけによって変わる。こうした神からの語りかけに耳を傾け、時の徴を認め、やがて来る新しい時代のイメージを共有することが幻を見ることであり、夢を見ることなのです。「神の国という確固たる実在を見つめ」ることなのです。

ところで、宮城学院資料室では、毎年『資料室年報』を発行しています。最新号に掲載されている佐藤亜紀さんの報告を紹介させていただきます。佐藤さんは毎年、新たに発掘された資料の紹介と解題を『資料室年報』に寄稿されてきました。最新号の寄稿では、「大正期の学生たち—清水アイさんご家族のご寄贈写真から—」と題し、資料室に寄贈された写真とその解題が行われています。

佐藤(旧姓)アイさんは1903(明治36)年に生まれました。1917(大正6)年に宮城

女学校高等科に入学、1922(大正 11)年に卒業、同年 4 月に音楽専攻科に入学し、1925 年に卒業します。卒業後は 1943 年まで 20 年近く、音楽専攻科の教員として勤められました。

佐藤亜紀さんの解題によれば、収録された 15 点の写真はご遺族が遺品整理をする中で発見されたそうです。御存じのように、宮城学院は戦災に遭いました。学校の多くの資料が失われています。こうした状況の中で、寄贈された写真は貴重な資料と言えるでしょう。さらに今回寄贈された写真の裏側には、撮影日時、名前などが記されていました。とても貴重な資料です。

写真が撮影された時期は、1920(大正 9)年から 1926(大正 15)年まで。佐藤アイさんが学生として在籍した期間が中心です。集合写真の中には、ファウスト校長、ハンセン先生、シュネーダー先生など先生方の写真がありました。寮生活や運動会などの学園生活を伝える写真もありました。背景にはレンガ造りの校舎、寄宿舍、宣教師館と思しき洋館が写り込んでいます。往時の宮城学院をイメージさせるものです。また、運動会の様子を伝える写真が 2 枚ありました。1 枚は「運命競争」(障害物競走)、もう 1 枚には「生存競争」(パン食い競争)と名づけられていました。セーラー服姿の学生たちが懸命に、必死に競技に取り組んでいる様子が写されています。

とくに興味深い写真は、女子青年会の写真です。女子青年会の写真には、土井晚翠の長女・照さんが写っています。彼女は在学中に亡くなられたようです。卒業名簿では、照さんの名前を確認することはできません。そうした目で見ると、やや暗い表情をしているし、健康も優れないように見えます。

同じ写真には、畠山千代子さんが収まっています。畠山さんは、幼少期に右腕を失ったことから、公立女学校への入学が認められませんでした。よく写真を見ると、たしかに右腕がないようにも見えます。彼女に救いの手を差し伸べたのは、当時の校長であるファウスト先生でした。ファウスト先生によって、畠山さんは宮城女学校で学ぶことになりました。卒業後は、弘前女学校(現弘前学院大学)の英語教師として活躍されました。大変な才媛で、英語で詩を書きました。著者名は C. Hatakeyama と記されていましたが、「幻の日本女性詩人」と呼ばれていました。現在、彼女の詩は『隻手(せきしゅ)への挽歌』にまとめられています。

これらの写真を見ながら気になったことがあります。それは、写真には写されていない 1926 年以降の本学の歴史です。昭和恐慌が起こり、戦争が始まる時代です。「運命競争」「生存競争」など暗い時代を予感させる写真は、現実のものになっていきました。宣教師たちや先生方は帰国を余儀なくされます。本学にとっては苦難の時代が訪れます。もちろん卒業生にとっても、困難な時代であったと思います。

改めて 1 枚 1 枚の写真指でなぞりながら、写真に切り取られた世界が、困難な時代を前にした、嵐の前の静けさを感じさせる世界であったと感じました。そして、当時の宮城女学校が一人ひとりの学生に、困難な運命を背負う学生たちにも、この世をしっかりと生き抜き、その後の困難な時代を生き延びる力、あるいは不条理な境遇を

乗り越える力を与えていたに違いない、こうした宮城女学校の歴史が、冒頭に紹介させていただいた同窓会 130 周年記念にもつながってくるのだと思いました。

学校の使命とは何か、とくにキリスト教主義学校としての使命は何か。これは永遠の課題です。今後どのような社会がやって来るのか、誰にも分かりません。昨今の世界の情勢を見ると、戦争や環境問題など、明るい将来像は描けない状況です。しかし、たとえ困難な時代になったとしても、困難な時代を生き抜いていく知恵と力を、一人ひとりの子どもたち、生徒たち、学生たちに与えていく。これが、本学の使命と言えるでしょう。

キリスト教の世界は、ペトロの説教のように、本質的に明るい世界です。困難な状況にあっても希望を持ち続けることができます。こうした確信を、次の世代に伝えて行きたいと思います。この場に集う皆様とともに「幻」を見つめながら、希望を語り伝える共同体を創り上げて行きたいと思います。

恵みの神

暑い夏が終わり、水の森を渡る風も秋らしくなりました。今日も朝からの御守りを感謝いたします。また、本日は月に一度の教職員礼拝を捧げております。この恵みの時を感謝いたします。

宮城学院は 130 年前、一人の宣教師によって設立されました。それ以来、多くの卒業生に対して、キリスト教主義に基づき、困難、苦境、不条理を乗り越える知恵と力を授けてきました。私たちは、心と意思と力を一つにして、「幻」を見る共同体としての歴史、伝統をしっかりと引き継いで参りたいと思います。どうぞ宮城学院に集う私たちを祝福し、強めてください。宮城学院に集う一人ひとりの子どもたち、生徒たち、学生たちに本当に必要なものを、豊かに与えられることができるよう、私たちを導いてください。

足らざる祈り、イエス・キリストの御名を通して、御前に捧げます。

(2023 年 10 月 18 日)